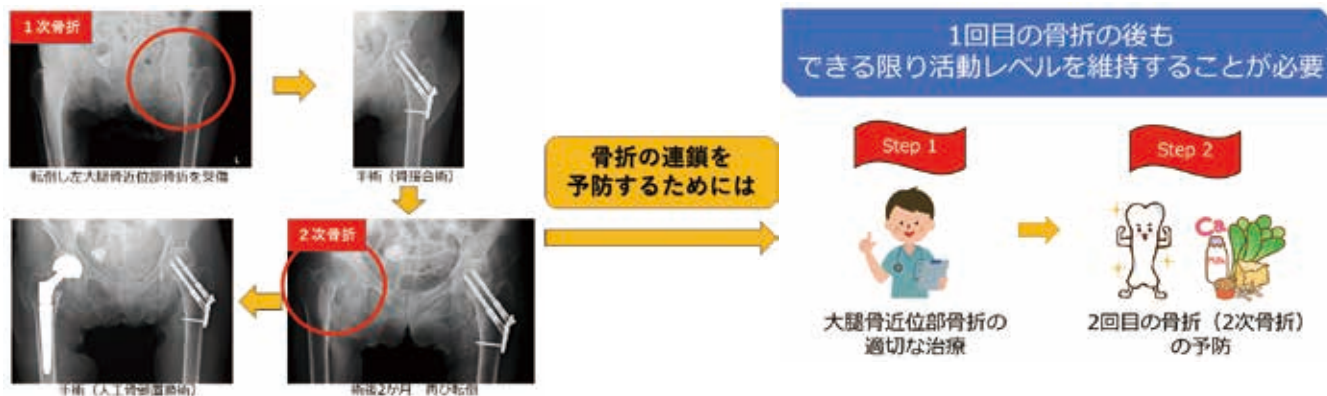


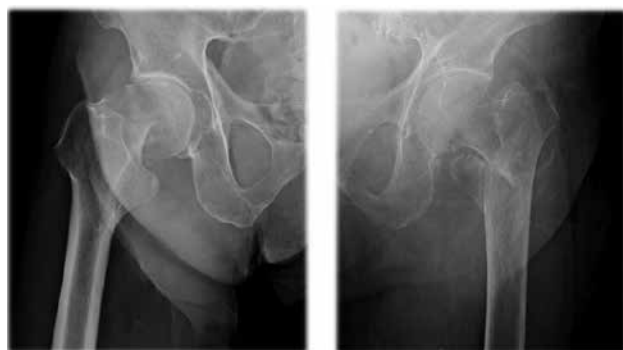
2回目の骨折(2次骨折)、予防して頂けますか?



超高齢化社会に急増する骨折

ご存知のとおり日本は世界で最も高齢化の進んだ国の一つです。だれしもが望むのは、ただ長生きするだけでなく、亡くなるその直前まで元気に活動する人生です。

高齢の方がひとたび転倒すると簡単に骨折が起きます。高齢者の骨折の多くは背骨の骨折(脊椎圧迫骨折)、足の付け根の骨折(大腿骨近位部骨折)、肩の骨折(上腕骨近位端骨折)、手首の骨折(橈骨遠位端骨折)です。明らかなケガがなくても、骨が弱くて骨折を起こすことすらあります。中でも、足の付け根の骨折(大腿骨近位部骨折)は、骨折すると痛みにより歩けなくなってしまうため、治療が遅れば、いままでのように歩くのは難しくなります。そして、介護が必要となれば、それは家族や周りの人の手助けが不可欠となります。



大腿骨頭部骨折(左の写真) と 大腿骨転子部骨折(右の写真)
両者とも大腿骨近位部骨折に含まれます

3人に1人が骨粗鬆症!?

ではなぜ、そんなに簡単に骨が折れてしまうのでしょうか。それは加齢とともに骨が弱くなる病気、骨粗鬆症(こつそしょうしょう)が背景にあります。骨粗鬆症は骨折が起きるまで症状のない病気です。したがって、検診や人間ドックで骨密度検査を受けない限りその病気に気づくことは難しいでしょう。50歳以上の女性の3人に1人は骨粗鬆症になると言われており、骨折してはじめて骨粗鬆症に気がつくケースも多いです。

骨折は突然に...

骨折は突然やってきます。転倒や交通事故など、骨折したくて骨折する人はいませんので、1回目の骨折を予防することはなかなか難しいと思います。

骨折の予防で大切なことは、実は、「2回目の骨折(2次骨折)を予防すること」だと考えています。骨折が連鎖すれば、日常生活の活動レベルは低下し、本人、介護する家族の負担が増すことは言うまでもありません。

しかし、多くの方が2次骨折の予防をしていないことがわかっています。その理由として、骨粗鬆症や2次骨折への認知度が低いこと、高齢の方で通院が難しかったり、施設に入所されているケースでは治療が継続できないことが原因として考えられます。

小牧市民病院 FLS 始めました☆



FLSチーム



骨粗鬆症手帳

当院では2次骨折を予防するため、小牧市民病院 Fracture Liaison Service (FLS) を開始しました。Fracture (フラクチャー) は「骨折」、Liaison (リエゾン) はフランス語で「連携、連絡」を意味する言葉で、骨粗鬆症診療に係わる多くの職種のスタッフが、チームとして患者さんの治療をサポートします。

2023年8月から、足の付け根の骨折(大腿骨近位部骨折)後の骨粗鬆症治療継続をサポートする活動を開始しました。入院中に患者さんとそのご家族

に病気の説明を行い、骨粗鬆症手帳をお渡しします。この手帳は、外来治療でも継続して骨密度検査結果を記載することができ、かかりつけの医療機関との情報共有にもなります。

また、看護師、薬剤師、理学療法士、栄養士、診療放射線技師がそれぞれの立場から2次骨折予防に必要なサポートを行うことで、いつまでも元気に歩いてもらえるよう支えてまいります。

活動はまだ始まったばかりですが、何かご不明な点があれば何なりとお尋ねください。

切れ目のない骨粗鬆症治療を目指して
各医療機関と連携し、治療を継続します



病院ホームページ 整形外科